第12課　教会組織と一致

【暗唱聖句】

「しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい」マタイによる福音書20章 26、27節

【日曜日・キリスト、教会の頭】

「キリストが教会の頭であり…」エフェソ5：23

「教会がキリストに仕えるように」エフェソ5：24

教会は体に例えられていますが、一番大切な部分の頭の部分はイエス様ご自身です。それゆえ教会は一体何のために存在しているのか（アイデンティティ）ということは、すべて頭であるイエス様から、つまり聖書の御言葉から来ます。イエス様が教会の頭である以上、教会はイエス様に仕えます。

「…自らその体の救い主であるように」エフェソ5：23

「キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように」エフェソ5：25

教会の頭であるイエス様は教会に対して何をしてくださったのかを忘れてはなりません。イエス様は教会の救い主あり、教会を愛し、教会のためにご自分を与えてくださったのです。なぜイエス様はご自分を与えてくださったのでしょうか。

「キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした」エフェソ5：26、27

イエス様がご自分を与えてくださったのは、教会を聖なるものとし、栄光に輝く教会をご自分の前に立たせるためだと書かれてあります。夫婦が結婚するとき、お互い清く傷のないものとして立ち、結婚の誓約を交わすのと同じです。わたしたちが聖なる神様の御前に立つことができるように、私たち自身も聖なるものに作り変えてくださると言うことです。

【月曜日・使える指導者】

「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」マタイ20：26～28

人の上に立つということは、人に仕えることであるというのがイエス様の教えでした。イエス様ご自身そうなさったわけですが、このような考えは当時の階層社会においてはありませんでした。そのため考え方を根本的に変えなければなりませんでした。これは今日においても同じです。ところで、イエス様は「偉くなりたい者は」と言われているわけですが、別に偉くなりたいと思っていないという場合はどうなるのでしょうか。実は人の上に立つかどうかは、自分で決めるものではなく神様が決められることです。

「わたしの右と左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、わたしの父によって定められた人々に許されるのだ」マタイ20：23

自分で仮に望んでいないことだったとしても、もし神様が選ばれたのなら従順に従わなければなりません。つまり、僕のように仕える者とならなければなりません。わたしが生きているのはもはや自分のためではなく、主のためなのです。自分が中心ではなく、主なる神様を中心にして生きるのです。

【火曜日・教会の一致を保つ】

「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい」第二テモテ2：15

「教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る人でなければなりません。そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできないでしょう」テトス1：9

聖書の真理の御言葉を正しく理解し、教え、従うということは一致に教会の欠かせない要素です。様々な人々が教会に集うわけですが、信じている教えが異なれば一致することはできません。同じ真理を信じているからこそ、一致が可能なのです。特に、このことは終わりの時代の教会において重要な意味を持ち始めます。

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようになります」第二テモテ4：2～4

御言葉の真理に耳を傾けないときが来ると聖書は預言しています。これは教会が正しい方向に進んでいくことを難しくさせ、教会員同志の聖書理解の違いから混乱を招くであろうことは容易に想像できます。だからこそ、日々御言葉を学び、それを述べ伝え、正しい理解に立つことが重要なのです。

【水曜日・教会の懲戒】

教会の難しい対応の一つに懲戒です。慎重に扱わなければならない問題ですが、教会の純粋さを保つためには時として懲戒処分をせざるを得ないことがあります。どのような場合に懲戒が必要になってくるのでしょうか。教会の純粋性を脅かすものは、まず異端や偽りの教えです。とりわけ終末には間違った教えが教会の中に入り込んでくる可能性が高く、それは教会に分裂をもたらすものです。このような異端や偽りの教えをもたらす者に対しては断固とした態度をとらなければならないことがあります。また教会に対する社会的評判に関わるような不道徳や犯罪行為なども懲戒の対象となります。聖書も懲戒についての言及があります。

「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。はっきり言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる」マタイによる福音書18章15～18節

ここに懲戒までの手順が書かれてあるので、これに従って対応していくことになります。つまり、まず個人的に忠告し、次に2～3人の証人の前で、それでもダメな場合は理事会・事務会の場となり、最後まで従わない場合は除名などの懲戒処分となります。

「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである」マタイ7：1

懲戒制度が教会に必要ではありますが、私たちは人を裁くことのできる存在ではないということは常に自覚しなければなりません。自分自身の中にも問題があることを思えば、謙遜にさせられます。

「兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。 互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです」ガラテア6：1，2

兄弟に罪を認めたならば裁くのではなく、柔和の心で正しい道に立ち帰らすことが大切です。そして同じ誘惑に陥らないように常に注意する必要があります。

【木曜日・宣教のために組織化する】

「イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」マタイ28：18～20

教会はそれぞればらばらに宣教するのではなく、組織立てて宣教の働きに携わっていくことが大切です。それにより教会組織は一つであることを証明していくことになります。わたしたちに与えられた使命は、「行って」「弟子にし」「洗礼を授け」「教える」の4つの働きを組織立てて行っていくことですが、この4つの動詞の中で本動詞となるのは「弟子にする」という言葉です。後の3つはそのために必要なことです。これには少し驚かされるかもしれません。洗礼を授けるが一番大切だと思いがちだからです。しかし、洗礼がゴールであれば、成長はありません。それはスタートなのです。